

Association of
Copyright for
Computer
Software

大学における ソフトウェアライセンス 管理の重要性について



平成21年6月17日

調査部 太田 輝仁

社団法人
コンピュータソフトウェア著作権協会



ACCSについて

ACCS

◆正式名称

社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会

(Association of Copyright for Computer Software)

◆設立

1985年（1991年に社団法人となる）

◆設立趣旨

デジタル著作物の権利保護、著作権の普及活動を通じて、コンピュータ社会における文化の発展に寄与すること

◆活動内容

○教育・広報啓発活動

○調査研究活動

○権利執行支援活動



ACCS情報提供窓口

ACCS

ACCS - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 ☆お気に入り

アドレス

あなたの声を、届けたい。

不正コピー情報ポスト

企業・団体やインターネット上で行われている、コンピュータソフトウェアなどの不正コピー情報をご提供ください。

情報をご提供いただく場合には、下の「入力フォーム」ボタンを押して情報提供用入力フォームへお進みください。

企業または団体の不正コピー情報はこちら **入力フォーム**

インターネットなどでの不正コピー情報はこちら **入力フォーム**

ACCSでは、フリーダイヤル[0120-765-175] 9:30~17:30(土・日・祝 休)とFAX[03-5976-5177]でも情報を受け付けています。ご利用ください。

■頂戴する情報の取扱いに関して
* < 情報提供者の個人情報 >
頂戴した情報のうち、情報提供者の個人情報は、頂戴した情報について当協会からお問い合わせをさせていただくためのみ利用いたします。

ページが表示されました

イントラネット

ACCSへの情報提供統計

1998年9月～2009年3月

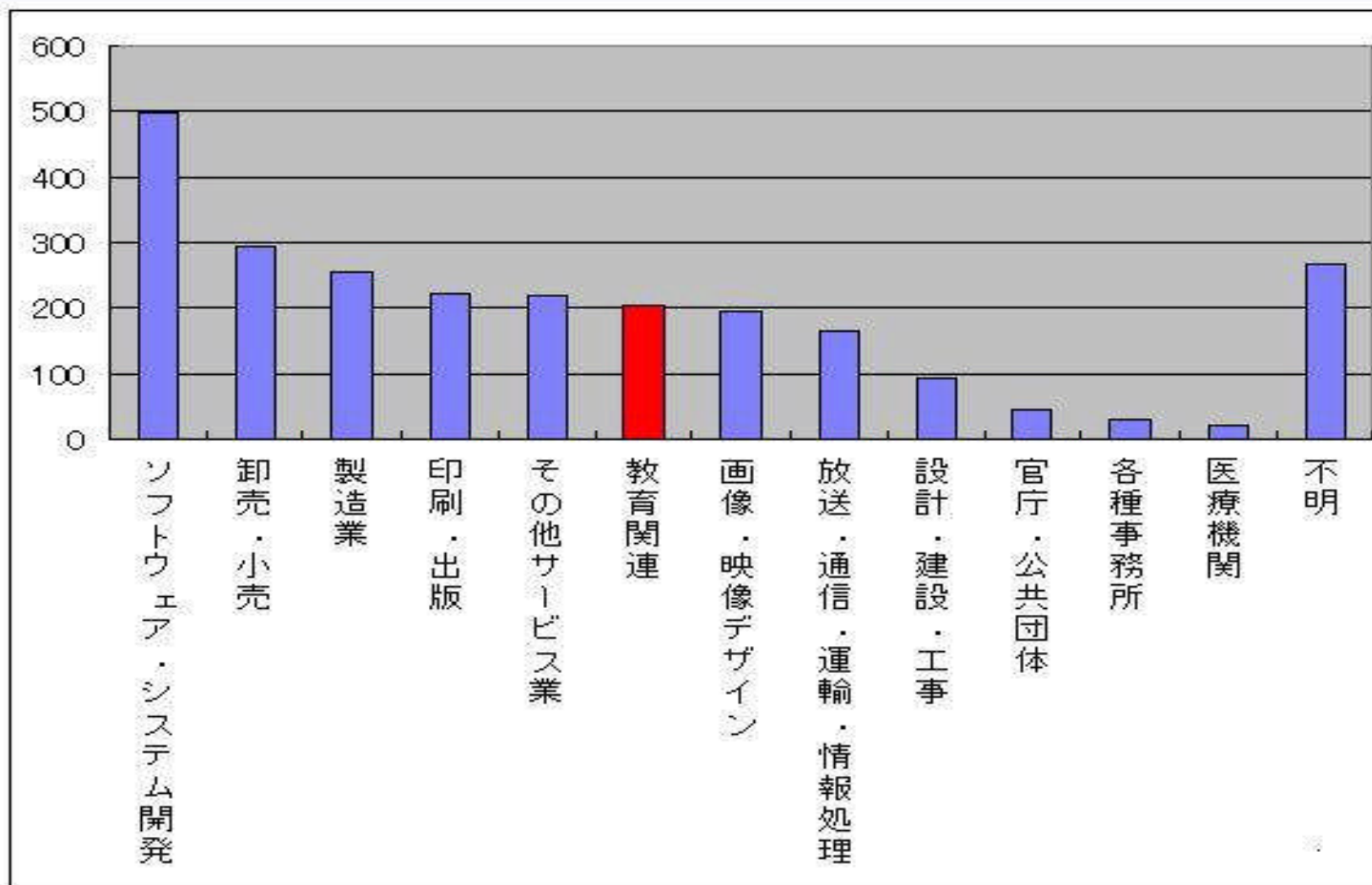
- ◆ ACCSへの組織内での違法コピーに関する会員からの報告件数

総件数	2,710
和解解決	690
和解金総額	84億3,872万6,838円
和解金平均	約1,225万円



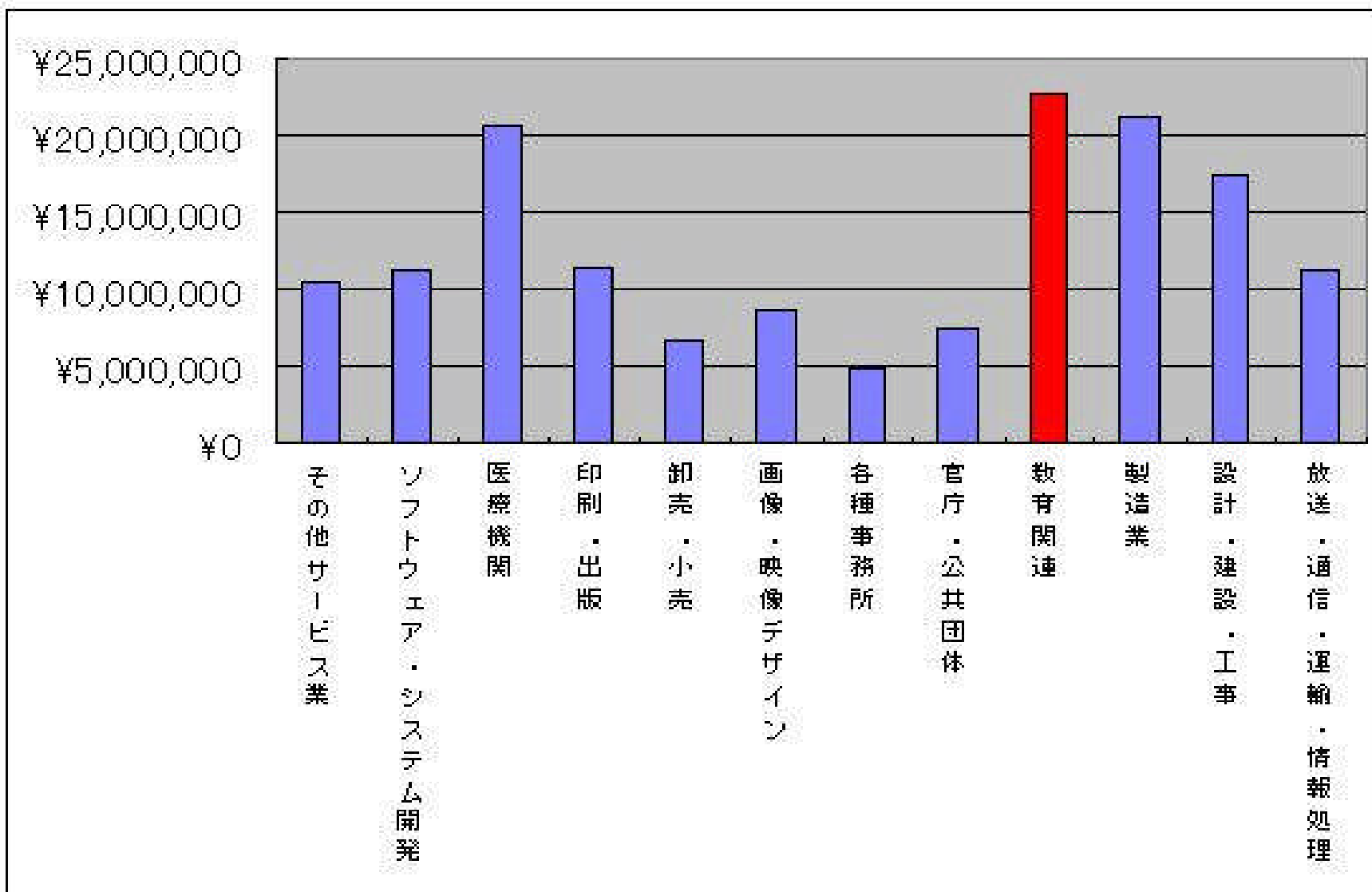
ACCSへの情報提供統計②

◆業種別情報提供数 (1997/9~2008/3 ACCS調)



ACCSへの情報提供統計②

◆業種別平均和解額 (1997/9~2008/3 ACCS調べ)



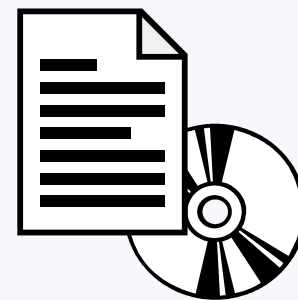
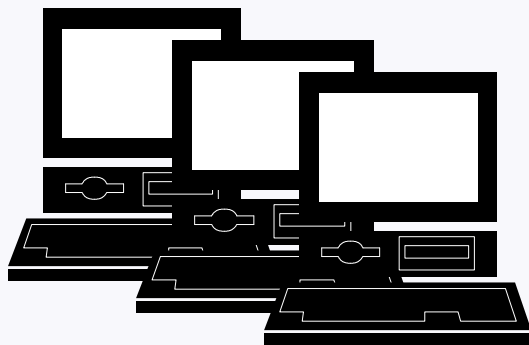
違法コピーとは

一般のパッケージソフトの場合

ソフトウェアの
インストール数
(複製数)

>

ライセンス数(複製し
て使用することを許諾
された数)



違法コピーの類型

ACCS

◆ 海賊版の利用

- オークションで購入
- インターネット（P2Pファイル共有ソフト含む）を利用しダウンロード
- PC購入時からライセンスなくインストールしてある

◆ ライセンス数の超過

- パッケージを一つだけ購入して使い回し
- 個人的なソフトウェアの持ち込み・持ち出し
- ソフトウェアの再導入の際の消し忘れ

など



組織内違法コピーの裁判例①

◆ 司法試験予備校事件

< 判決概要 >

- 2001年5月、東京地裁はソフトウェアの違法コピーに関し大手司法試験予備校に対して、総額約8,500万円の損賠賠償金の支払いを命じた。
- 司法試験予備校側は、「買ったので賠償する必要なし」と主張したが、判決は「買ったからと言って賠償する必要がなくなるわけではない」と判断

**違法コピーを指摘されてから購入しても
損害賠償責任は免れない**



組織内違法コピーの裁判例②

ACCS

◆ コンピュータスクール事件

◆ <判決概要>

- 2003年10月、大阪地裁は、ソフトウェアの違法コピーに関し、コンピュータスクールを経営する会社などに対し、総額約3,800万円の損害賠償を命じた。
- 代表者（役員）の監督義務違反を理由として、代表者（役員）の個人責任まで認めた。

従業員の違法コピーを放置していれば、
役員が個人的に損害賠償義務を負う



組織内違法コピーの裁判例②

◆ コンピュータスクール事件

- ▶ 既にパソコンから消去されていた場合であっても、インストールされていた痕跡が認められる場合には、ソフトウェアのインストールがあったものと認定した。

違法コピーを指摘されてから削除しても
損害賠償責任は免れない





リスク①: ウイルスのルート

違法コピーは、ウイルスやワームといつでも「双子」の関係

- ◆ 海賊版ディスク
- ◆ インターネットからダウンロード
- ◆ P2P（ファイル交換ソフト）からダウンロード



海賊版ソフトのチャンネルは
ウイルスが広がるルートでもある



リスク②: 無保証

- ◆ 海賊版が正常に動かないことは「日常茶飯事」
- ◆ マニュアルやヘルプもない
- ◆ 技術サポートもない
- ◆ バージョンアップや更新も不可能



- ▼ 常にシステムクラッシュや再インストールの「悪夢」に陥ってはいられない
- ▼ ITシステム構築がもたらす組織的な競争力に欠如してしまう



リスク③: 法的責任

ACCS

	刑事罰	民事責任
組織	3億円以下の罰金	・ 組織としての損害賠償責任
代表者	10年以下の懲役または1000万円以下の罰金（併科あり）	・ 代表者の積極的な関与による違法コピーに対する損害賠償責任 ・ 従業員の行う違法コピーを放置したことに対する損害賠償責任
従業員		・ 従業員が自分の判断で行った違法コピーに対する損害賠償責任



リスク③: 法的責任

ACCS

◆ 支出の増大

- 損害賠償金の支払い
- 弁護士費用・訴訟費用
- 実態調査にかかる時間・人員

◆ 正常化に伴う作業

- 違法コピーの削除
- 必要なソフトウェアの新規購入



リスク③: 法的責任

ACCS

正規購入の場合

店頭
小売価格

巨額な金銭的ダメージ!

違法コピーが
発覚した場合

正規品
小売価格

損害賠償金

正規品小売価格
× 一定の倍率

訴訟
費用

弁護士
費用

■ ソフトウェアの違法コピーは「割に合わない」



リスク④: 社会的責任

◆ 社会的な信用の失墜

- 名誉及び社会的信用の低下、失墜



責任感がない; 信頼できない大学と
思われてしまう



組織内違法コピーの防止

ソフトウェアはデジタル情報



意識的な管理が必要



『ソフトウェア管理』
(ソフトウェア資産管理(SAM))



何故ソフトウェア管理をするか

ACCS

- ◆一義的には「法令遵守」
不正コピーは著作権法違反
- ◆その他のメリット
 - 情報セキュリティの観点
 - 資産管理の観点

①インストール数の把握



情報セキュリティ

②ライセンス数の把握



資産管理

①と②の照合



法的リスク管理



ソフトウェア管理と 社会情勢との関わり

ACCS

著作権法遵守

+

以下の要請を満たすための、重大な一要素を占める。

コンプライアンス・CSR

情報セキュリティ

内部統制



ACCSが提案するソフトウェア管理

ACCS

違法コピーがない＝
ソフトウェア管理ができています

保有
ライセンス数

\geq

インストール数

この関係をキープする

- ソフトウェアの利用状況を把握する
- 勝手なインストールを未然に防止する
- 勝手なインストールを事後的に発見する



大学における管理の課題

ACCS

全てのPC・ライセンスの
管理をどう実現するか？



大学における管理の課題

ACCS

エリア	事務区 図書館 計算機センター	研究室	学生PC
対象	職員	教員	学生



どのように実現？

- ・ソフトウェアの利用状況の把握
- ・勝手なインストールの未然防止
- ・勝手なインストールの事後的発見

